

## 新型コロナウイルス対応緊急支援助成 事業計画（実行団体）

事業名（主）	親子を支援につなぐ ひとり親家庭の食の支援事業
事業名（副）	おいしいご飯。困っている親子を多様な支援へつなぐ架け橋に。

実行団体名	特定非営利活動法人やまがた育児サークルランド
資金分配団体名	公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

### 優先的に解決すべき社会の諸課題

※該当する領域に☑（チェック）を入れてください（複数可） ※左側でチェックした領域に対応する分野に☑を入れてください（複数可）

領域		分野	
☑	1) 子ども及び若者の支援に係る活動	☑	①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援
		☐	②日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援
		☐	③社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援
☑	2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動	☐	④働くことが困難な人への支援
		☑	⑤社会的孤立や差別の解消に向けた支援
☐	3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動	☐	⑥地域の働く場づくりの支援
		☐	⑦安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援

上記以外 <sup>その他団体として解決したいと考えている社会の課題</sup>	☐	
------------------------------------------	---	--

実施時期	2020年11月～2021年10月
事業対象地域	☐ 全国 ☑ 特定地域（山形県・福島県）
事業対象者 （事業で直接支援する対象者と、その他最終受益者を含む）	ひとり親家庭の親子、東日本大震災後福島県から自主避難してきた親子
事業対象者人数（想定）	1040名

### I.団体の社会的役割

(1)申請団体の目的
子育て中の家庭、特に乳幼児やその家族及びそれに関わる個人や団体に対して、子育て支援などの活動や事業を行い、よりよい子育て環境が実現できる地域社会の形成とすべての人々がすこやかに暮らせる男女共同参画社会の実現に寄与することを目的とする。

## (2)申請団体の概要・事業内容等

概要：やまがた育児サークルランドは、子育てしやすい地域づくりと母親も父親もいきいきと子育てや仕事・市民活動ができるよう活動する特定非営利活動法人です。山形で自主的に活動する「育児（親子）サークル」のネットワークを作り共通の問題を解決しようと平成 10 年 3 月に発足しました。育児サークルや役員経験者などが中心になり団体を立ち上げ、子育て支援の活動をしています。

事業内容：育児サークルや育児支援サークルの支援とネットワーク化事業、保育事業、育児や育児中の生活に関する情報収集と提供事業、女性や育児中の方々の人材育成に関する事業、調査・提言事業、育児支援の様々な事業に対するマネジメント支援及びコンサルティング事業、子育て支援施設の運営事業、子育てに関するイベント事業、その他会の目的達成に必要な事業

## II.事業の背景・社会課題

### 新型コロナウイルス感染症により深刻化した社会課題

私たちが運営している親子の居場所「子育てランドあ〜べ」は山形市の中心部にあり多くの親子が利用する施設、親子の居場所である。今春の新型コロナウイルス感染症の流行により、突然約 3 か月間閉鎖された。妊産婦や乳幼児の子育て家庭向けの講座や事業も、親子が集うイベントも、すべて中止となった。5 月下旬から再開したが、8 月となった現在でも、密を避けるための人数制限や消毒のため閉館時間を設けている。そして、イベント中止、飲食禁止など、制限付きである。再開後の来館者からは、家で過ごし親族や友人との交流も少なく、不安を抱えたままで、「子どもと 2 人だけで煮詰まっていた」との声が多い。また、全国認定子ども園協会のアンケート結果でも子育て家庭の孤立傾向が指摘されている。

「あ〜べ」隣接の pont tree café は、居心地の良い木陰に集い、人と人の架け橋になるというイメージで自主事業として運営してきた。感染症の流行に伴い売り上げが減少し「子育てランドあ〜べ」利用の親子が来なくなり、緊急事態宣言時には閉店を余儀なくされ、その後開店したものの活動が停滞している。これにより定期的な実施してきたひとり親のグループ支援や相談事業、避難家庭支援活動、食育活動が中断し影響を受けた。

これらのことから、困難を抱える子育て家庭の保護者が支援につながりにくくなっていると考えられる。特に、令和元年 12 月生まれ以降の子どもが、通常受けられる支援につながらず孤立傾向が高まっていると考えられる。また、感染症が流行した 3〜4 月は転勤族の家庭が転入する時期であり、子育て支援の情報が不足し、子どもが家庭のみに留まっている例が相当数存在すると思われる。

今後、適切な支援がなされないと、子ども同士の交流が限定的なものになり発達機会が保証されなかったり、親のストレスが増大する恐れがある。ひとり親家庭の就労や経済面の心配も出てくると考えられ、いろいろな要因が重なり児童虐待のリスクが高まってくることが予想される。

## III.事業内容

### (1)事業の概要

pont tree café において、食事やカフェメニューを提供しながら、親や子どもの相談に対応し、食事券付きの冊子を郵送する等し、カフェに集う仕組みを検討しながら、子育てや子育て支援の情報を提供する。ひとり親家庭、東日本大震災後の避難家庭など課題を抱える親子に食事を提供する(子ども食堂)他、対象ごとに定期的なイベントや行事を開催する。これら親子の状況を把握し、必要に応じてほかの活動につなぐ(ボランティアの家庭訪問支援、子どもの一時預かり、母親の再就職支援、子どもの遊びや活動の支援など当団体の活動につなぐ)。他機関との連携体制を形成し社会資源につなぐため、地域住民との交流イベントを開催し、親子を地域につなぐ。これらにより、親子の孤立を防ぎ児童虐待を予防する。

(2)事業実施後（1年後）以降に目標とする状態	
ひとり親支援活動を安定的に実施でき、親子が集い交流できる居場所を継続できるようになる。 「子育てランドあ〜べ」の活動との相乗効果で、育児情報提供、離乳食支援、食育活動などを通じ、親同士の交流が深まり、親同士が助け合うピアサポート機能が強化される。例えば、同じくらいの子どもを育てる親同士という、ヨコの関係だけでなく、ひとり親としてがんばってきた先輩ママとのタテの関係が生まれ、助けあう人間関係が生まれる、などである。 pont tree café がひとり親家庭や地域に認知され、子育て家庭と地域住民が交流する機会を定例化し継続的に行われる。	

(3)今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	孤立しがちな乳幼児家庭、ひとり親家庭、避難家庭等のべ 300 世帯の親子に食事の提供が行われる。支援者や地域住民との交流機会が月 1 回行われ、親子が支援につながり、相談先が複数ある状態になっている。
実施・到達状況の目安とする指標	食事の提供数、イベントの実施回数と参加者・ボランティア数、多様な子育て支援につなぐためのミーティングの実施回数、個別につなげる家庭数
把握方法	食事提供数のカウント、イベントの実施回数と参加者・ボランティア数のカウント、ミーティング実施回数のカウント、個別支援につなげる家庭数のカウント
目標値/目標状態	食事提供数（1040 食）、イベントの実施回数（12 回）と参加者（120 名）・ボランティア数（60 名）、ミーティング実施回数（6 回）、個別支援につなげる家庭数（15 世帯） ひとり親家庭に通年で食事が提供できる(定休日以外)ようになる。 イベントが継続的に実施される。親子が支援につながり、相談先が複数ある状態になっている。
目標達成時期	事業実施後（1年後）

(4)活動	時期
シンシンの会（ひとり親家庭）	1 カ月 1 回
ひとり親家庭の交流イベント（地域連携）	2 か月に 1 回
「元気もりもり」ランチ提供（ひとり親家庭・避難者家庭）	1 週間に 2～3 回

(5) 事業の今後の展開（今後、団体が目指す事業展開）	
妊娠期から乳幼児期まで切れ目のない子育て支援を行うため、pont tree café を安定的に運営し、隣接する子育て支援施設「子育てランドあ〜べ」の機能を強化する。ひとりひとりを尊重し、親子に丁寧にかかわりながら、親自身の力・子どもの力を信頼し寄り添う支援を行っていく。ひとり親家庭と地域の交流により、地域と子育て施設、子育て家庭をつなぐモデル事業として発信する。	

(6) 日々の事業実施や組織運営において子どもの安心・安全をどのように確保していますか？

(子どものセーフガードの取り組みなど)

親子が自分らしくいられるように支援することを理念とし、子どもの最善の利益を尊重しているが、この機会にさらに体制の構築、強化を目指したい。また、家庭訪問ボランティアにはホームスタートワールドワイドのカリキュラムに基づき子どものセーフガードについて学び、誓約書の提出を求めている。

(7) 子どもへの支援活動を行う際に、団体として、留意・心がけているポイント。(活動における子どもの役割など)

子どもが成長しても、自分がいつでも立ち寄れる場所になれるよう心がけて支援、手助けをし、子ども同士、親同志、地域の様々な人たちと一緒に子育てを考える。

いろいろな人が関わりあって子どもが育つ、みんなで育む・・・そんな手助けを心がけている。

子ども支援、親支援においても、成長した子どもたちが、アイデアを出し合い活動の役割を担ってもらう。

#### IV.事業実施体制

(1)メンバー構成と各メンバーの役割	リーダー（管理者、コーディネーター・志田洋子） スタッフ（ひとり親家庭担当、相談担当・森田由美子） （企画、メニュー調理担当・佐藤典子、阿部頼子） （地域連携・広報担当・佐藤由美）（有償ボランティア）
(2)他団体との連携体制	七日町商店街振興組合、七日町街なか案内との連携
(3)想定されるリスクと管理体制	新型コロナウイルス感染症拡大のリスクは、山形県、山形市のガイドラインにより防止対策を行う。感染流行に対応し、必要に応じて食事のテイクアウトや個別支援にきりかえ活動を継続実施する。

#### V.関連する主な実績

(1)休眠預金以外の助成・補助金活用の有無

コロナウイルス感染症に係る事業

①本申請事業について、コロナウイルス感染症に係る助成金や寄付等を受け活動している (予定も含む)	<input type="checkbox"/> 有り	「有り」の場合その詳細
	<input checked="" type="checkbox"/> 無し	
②本申請事業について、国又は地方公共団体から補助金又は貸付金（ふるさと納税を財源とする資金提供を含む）を受けていない。	<input checked="" type="checkbox"/> 無し	※有の場合、選定の対象外となります。 (公募要領：助成方針参照)

(2)申請事業に関連する調査研究、連携の実績

避難者支援の連携先 NPO 法人ビーンズふくしま

東日本大震災復興拠点「みんなの家セカンド」「わくほこいも煮会」「夏休みキャンプ」を共催

子育てひろば全国連絡協議会を通じて回答協力「新型コロナウイルスに係る就学前の子育て家庭の緊急アンケート」（特定非営利活動法人全国認定こども園協会、2020年6月）